

校訓	自分を育て 自分を生かし 社会を明るく	令和5年度学校だより 「天の子」 第12号	発行日	令和5年10月24日
教育目標	夢と誇りのある生徒の育成 ～自ら学び、考え、行動する力と、豊かな心を育む～		発行者	伊丹市立天王寺川中学校 校長 前田 徳三

【読書の秋 子どもも大人も本を読みましよう】

猛暑が終わり、日々、熱中症対策に翻弄されていたことが嘘のように朝夕はめっきり寒くなりました。現在、校内は子どもたちの笑顔が輝き、爽やかな歌声が響き合っています。秋は、「食欲」の秋、「芸術」の秋、「読書」の秋、「スポーツ」の秋、「行楽」の秋と言われています。また、この時期は、心と身体をいたわりながら、子どもも大人も新しいことにチャレンジしたりできる機会が目の前に広がっています。

読書の秋ですが、先日文部科学省が公表した「21世紀出生児横断調査」において衝撃的な結果がでました。21歳の若者が小学生の頃よりも読書する時間が大きく低下していることがわかりました。これは明らかに、SNS（ネット交流サービス）や動画サイトの普及が大きな要因です。電車やバスに乗っていても、スマホを触っている若者たちばかりで、読書している人はほとんど見かけせん。文部科学省は、「読書は人生の豊かさに繋がるために、図書館の整備などを通して読書の後押しをしたい」と見解を示しています。

全国学力・学習状況調査から、SNSを利用する時間が長い子どもほど、正答率が低い傾向にあり、読書が好きな子どもほど国語だけでなく、算数や数学の正答率も高いことが明らかになっています。また、子どもの学力は、学校での授業だけでなく、家庭での読書量や朝食の摂取、もちろん家庭での学習など、大いに生活習慣と関係していることもわかっています。

独立行政法人国立青少年教育振興機構が公表した「子どもの頃の読書活動の効果に関する調査研究」では、読書活動が活発な子どもの方が、意欲的で非認知能力が高いとしています。小中高校時代に継続的に読書をしている人は、読書を通して、創造性や協調性などの非認知能力が育っているということです。

さらに、「紙媒体であろうと電子書籍であろうと、ツールに関わらず読書活動することや、小中高と継続した読書活動は子どもの主体的行動力を高めると考えられる」と結論づけられていました。

読書をすれば、自分の生きている世界とは違う世界に出会うことができます。また、自分が未だ知らない世界や、今後どこかで繋がってくる世界が見えてくる場合もあります。本を読めば、著者が表す世界を想像しながら読みとって行くことになります。そうすることによって、読書を通して自分なりに想像する力が養われてきます。それこそが中学生時代に重要なことです。また、10代に読んだ本は将来、

覚えている本がたくさんあります。明らかに自分の人生に大きな影響を与えることが多分にあります。その当時、あまり分からなくても将来、わかるようになる本もあります。人は20歳ぐらいまでの間に、脳を猛烈な勢いで変化させて作り上げていきます。そのためにも、読書は将来、自分という人間がどう生きていくのかについて影響を与えるととても重要な役割を果たすことになります。図書室では新しい本を随時、取りそろえています。ご家庭においても、親子で読書をする機会を多く作っていただきたいと思います。



【早寝早起き】

季節の変わり目になり、最近、朝起きられずに遅刻してくる子どもたちが少なくありません。早起きをすることは意外と簡単です。まず、起きる時間を決め、睡眠時間を考えて寝る時間を逆算してください。できれば7時間以上は睡眠してもらいたいです。早起きは時間の余裕を生むだけでなく、実行できた日が続けば「自分で決めたルールを守ることができた」という小さな達成感が生まれます。それが積み重なって「自己肯定感」も高まってきます。もし、朝7時に起きるのを5時に起きれば2時間の余裕が生まれます。プラス土日少し長く余裕の時間を取れば月に約100時間の余裕が生まれ、1年間で1200時間という驚くべき時間を生み出すことになります。早起きの生活は自分らしく、目的をもって生きるためにとても有効な手段です。夜型の人も1ヶ月もあればルーティン化でき、必ず朝方に切り替えることができます。



また、朝食について、全国学力・学習状況調査から毎日朝食を食べる子どもほど、学力調査の平均正答率が高い傾向にあり、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」においても、毎日朝食を摂る子どもほど、体力合計点（スポーツ得点）が高い傾向にあることがわかっています。今年度の全国学力・学習状況調査でわかった朝食摂取率は本校89.2%でした。朝食摂取率の100%を目指していきましょう。規則正しい生活を過ごしなが、一日のスケジュールもしっかりと立て、充実した秋を過ごしてください。

また、例年この時期になると全国的に欠席率が増加する季節です。本校においては教育相談アンケートを実施し、各学年で共有を図りながら、一人ひとりの子どもたちに対して教育相談を行っていきます。もし、ご心配なことなどがありましたら、お気軽に担任または、学年職員、養護教諭、教頭先生などにご相談ください。校長室も来客や会議などを除いて、廊下側も含めて常に三方の扉を開放しています。

天王寺川中学校の取組や子どもたちの様子をホームページに載せています。是非、ご覧ください。

https://www.itami.ed.jp/school/Jrhhigh/jr_tenn/index.html

※右のQRコードをお読みいただき、天王寺川中学校のホームページをご覧ください。

